

英会話力を伸ばす機会を数多く用意 学びを通じて、生徒の内面も変わっていく

聖園女学院中学校・高等学校は、カトリックの教えに基づき、生徒一人ひとりが自分の使命を自覚して成長することを教育目標としています。国際教育では、国際人として社会に貢献できる人材を育てるため、さまざまな取り組みを行っています。その内容について、英語科の鯉淵スーザン先生と、生徒の山内理紗子さん（高1）、吉田優生さん（中3）に詳しく伺いました。



英語科 鯉淵 スーザン先生

ネイティブ教員による取り出し授業では、 文学作品を通して語彙力と表現力を磨く

同校の英語教育では、4技能の基礎をしっかりとし身につける通常授業に加え、各学年でネイティブ教員による英会話の授業も実施しています。英会話ではクラスを二つに分割し、ていねいな指導により英語でのコミュニケーション力の向上をめざします。

英会話の授業を担当するのは、専任のネイティブ教員3人。話題性のあるトピックに関する調べ学習やディスカッションを行うほか、ゲームを交えた授業を実施することもあります。

中3の吉田優生さんは、「Pecha Kucha（ペチャクチャ）」という形式のプレゼンテーションを扱った授業が印象に残っていると言います。「これは、今まで学んできた単語や文法を使って10枚のスライドを作り、1枚当たり10秒でプレゼンをするというもの。扱うテーマは、最初は『Three things I like（わたしの好きなもの三つ）』といった簡単な内容ですが、だんだん難しくなっていきます」と説明します。

中3までの英語力が高い生徒を対象とした、ACE（Advanced Class of English）と呼ばれるオールイングリッシュの取り出し授業も、同校の英語教育の特徴です。

英語科のネイティブ教員である鯉淵スーザン先生は、ACEについて次のように説明します。「ACEでは、わたしがアメリカで学んだ教育を手本にして、文学作品を通して語彙や表現を学習します。『戦争』や『冒険』など、生徒に学んでほしいテーマを選び、主人公の気持ちを考察するなど、生徒自身に考えさせる時間を大切にしています」



ネイティブ教員と、高1の山内理紗子さん（前列右）、中3の吉田優生さん（前列左）

充実したプログラムで英語力を向上 2019年度から海外大学への推薦制度も拡大

授業以外では、気軽に英会話の練習や異文化体験ができる場として、MEA（Misono English Academy）も人気を集めています。MEAの教室は昼休みや放課後に開かれ、ネイティブ教員とゲームや英会話を楽しむことができます。

留学プログラムも充実しています。中3には選抜制のニュージーランド中期留学・1年留学、高1の夏休みには希望制のカナダ短期留学があります。留学に参加した生徒は、英語学習に対するモチベーションが高まり、なかには帰国後にACEクラスに入り、トップレベルの英語力を身につける生徒もいるそうです。高1の山内理紗子さんも、カナダ短期留学に参加した一人。英語のリスニング力を強化し、周囲に流されやすい自分の性格を変えたいという思いから参加しました。「最初は、ホストファミリーにはっきりと意見を伝えられませんでした。しばらくすると、食事時などには、『もうこれ以上食べられません』などと意思表示することが必要だと実感し、少しずつ自分の意見を言えるようになりました」と振り返ります。

2019年度からは、「海外大学進学協定校推薦制度（UPAS）」を導入し、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアの大学に進学できる機会が拡大しました。大学によって求められるレベルは異なりますが、聖園女学院の評定や英検®の基準をクリアすれば、推薦で入学できる大学もあります。鯉淵先生は、「今後はACEやUPASを活用する生徒をさらに増やし、海外との架け橋になる人材を育てていきたいと考えています」と、今後の抱負を語りました。

Information

※学校説明会などの情報は右記よりご確認ください。



※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。